

生研ニュース

☆皇太子殿下、東大生研および物性研ご視察☆

皇太子殿下は、昭和40年6月17日(木)午後1時30分、生産技術研究所にご到着、同45分より第5部丸安研究室(写真測量)、第1部久保田研究室(二重回折法による像再現)、第4部野崎研究室(酸化チタン感光紙による電子写真)、第3部斎藤研究室(レーザの通信への応用に関する研究)、第2部平尾研究室(自動車に関する研究)および物性研究所の極低温研究室、結晶II研究室、超高圧研究室、50万ボルト超高圧電子顕微鏡室をご視察になりひきつづき、約1時間にわたり教官との懇談会が催され、4時40分帰還された。

☆生研と社研の会合☆



4月19日午後東大社会学研究所の有泉所長以下11名の教授・助教授・講師が生研へ来られ、当方は岡本所長以下、藤高・星野・菊池・星埜・丸安・勝田・浅原各教授、武藤・石井・早野・山口・北川の諸助教授出席、両研究所で共同で公害問題の研究を行なう可能性について検討した。社研側は法律・経済問題のエキスパートで公害の補償に対する問題などの専門家であり、こちらは新潟地震の災害の調査、防災などの研究予定、自動車の排気の問題など現在関心をもっていることを話し合い、さらに小委員会をもうけることにして、生研側星野教授、社研側汐見教授が幹事となった。

5月31日(月)午後3時第2回の会議が社研において行なわれ、当所より岡本所長、星野幹事、藤高・菊池・星埜・勝田・雀部・武藤・星野の各教授、助教授が出席した。雀部教授より製鉄所による煤煙が法律の規制でずっと少なくなり、その努力したことが国際競争に堪えしめたことを報告した。社研汐見教授は公害研究会が研究(ジュリスト誌昭和39年10月18日号および11月15日号にのべた内容)について報告された。藤高教授は火力発電所における煤煙防止の努力についてのべられた。平尾教授は自動車の排気ガス中のSO₂など除去することが望ましいが、現段階では工場の廃ガスの方が都市大気汚染に影響が大きいであろうという意見をのべた。

☆受 賞☆

◇第3部 浜崎襄二助教授は昭和40年3月31日、電気通信学会より、新進の科学者または技術者の電気通信および電子応用の分野における独創性ある研究奨励を趣旨とする岡部記念研究奨励金を授与された。

◇第3部 安田靖彦助教授は工学部猪瀬教授、日立製作所高野氏とともに論文「 Δ - Σ 変調方式によるテレビジョン信号の伝送」によって、5月29日テレビジョン学会から、第5回丹羽、高柳賞を授与された。

☆講 演☆

◇助教授 三木五三郎「土質試験法・調査法に関する最近の話題」土質工学会北海道支部講演会、札幌市民会館において(1965.2.16)

◇教授 尾上守夫、助手 山田博章「板波の減衰の周波数特性」日本音響学会春季研究発表会、No.2-1-14早稲田大学において(1965.5.15)

◇教授 尾上守夫、大学院学生、望月雄蔵「超音波遅延回路における遅れエコーの解析」同上 No.2-1-15 早稲田大学において(1965.5.15)

◇教授 鳥飼安生、技官 李 孝雄「超音波による応力解析について」音響学会春季研究発表会(1965.5.16)

◇助教授 三木五三郎「建設工事の基礎および材料としてのわが国の土」日本材料学会第14期学術講演会、大阪科学技術センターにおいて(1965.5.18)

◇教授 互理 厚「自動車の操縦性安定性に関する研究(第5報コーナリングにおける加速)」自動車技術会総会講演会(1965.5.19)

◇助教授 三木五三郎「原地盤状態再現モールドを用いたグラウチングの基礎的実験」土木学会第20回年次学術講演会、九州大学において(1965.5.30)

◇助教授 北川英夫「環境と疲れ強さ」第231回日本工業経済連盟講座、全労連会館において(1965.6.4)

◇教授 山辺武郎、教務職技官 高井信治、助手 妹尾学「イオン交換紙におけるNa, K, Caの電気泳動の研究」日本塩学会第16年会、岡山市山陽新聞社講堂において(1965.6.10)

◇教授 鳥飼安生、技官 李 孝雄「超音波による応力測定を試み」NDI第4分科会(1965.6.17)

☆寄 稿☆

◇助教授 三木五三郎「高含水比粘性土土工の諸問題」土木学会関西支部等主催、土質改良工法、講習会テキスト p.41~58(1965.3)

◇助教授 三木五三郎「関東地方における土質事情」土と基礎13, 4, p.1~2(1965.4)

◇助手 朝倉利光、研究生 藤原裕文「切断したルビーのレーザー発光状態」応用物理34, No.5, p.343~349(1965.5)

◇助手 朝倉利光「ホログラフィーの誕生」自然20, 6, p.38~50(1965.6)

◇教授 渡辺 勝「OKITACによるロケットの性能計算」沖電気時報、第26号32, 2, p.1~9(1965.6)

◇教授 大井光四郎「抵抗線ひずみ計の衝撃追従性について」日本金属学会報, 4, 3, p. 214~218

◇教授 菊池真一, 元研究生 沈 貞燮, 受託研究員 加藤日出夫, 元菊池研究室員 吉永忠司「感光性樹脂の増感と分光感度」工業化学雑誌, 68, p. 1002 (1965)

◇教授 菊池真一, 元研究生 沈 貞燮, 元菊池研究室員 吉永忠司「重縮合型感光性樹脂の光硬化反応」同上 68 p. 1009 (同上)

◇教授 菊池真一, 元研究生 沈 貞燮, 千葉大学教授 角田隆弘「重縮合型感光性樹脂の製版への応用」同上 68 p. 1013 (同上)

☆所内見学☆

◇5月14日(金)に国際地震工学研修員約16名が次の各研究室を見学した。平尾, 松永, 渡辺, 坪井, 丸安, 星埜, 勝田, 石井, 岡本, 久保, 山田研究室。

☆海外渡航☆

◇第5部 齊藤成文教授はアメリカのイリノイ大学において開催される第23回電子装置研究会議に出席, ならびにスペースエレクトロニクスに関する諸問題について研究連絡のため6月21日出発し, 7月12日帰国の予定。

◇第5部 井口昌平助教授は5月24日から6月3日までの間, パリーのユネスコ本部で開催された国際水文学十年計画第1回調整理事会に政府主席代表として出席, その後フランスアルプス地方の急流河川の河床状態, 洪

水対策事業, 洪水被害状況などを視察し, グルノーブルのドーフィネ水理学研究所を訪問し, 6月22日帰朝した。

☆高橋安人元教授来日☆

米国カリフォルニア大学高橋安人教授(元第2部教授)は5月18日欧州を経て来日された。約三カ月間本所研究員として滞在, その間東京大学工学部・東京工業大学等で特別講義が行なわれる予定である。

☆人 事☆

◇第1部 朝倉利光助手は特別研究員を命ぜられた(1965. 4. 1)。

◇第1部 山田嘉昭助教授は教授に昇任した(1965. 6. 1)。

第5部 川股重也助手(特別研究員)は講師に昇任した(同上)。

◇第5部 伊藤鄭爾助手(特別研究員)は辞職した(1965. 6. 16)。

生研ニュース

正誤表(6月号)

頁	段	行	種 別	正	誤
1		3	アブストラクト	実 船	実 現
2	左		第2図説明	C _T	C _r

筆 者 紹 介

◇西 久夫 助手 専攻 有機合成化学

◇朝倉利光 助手(特別研究員) 工博 専攻 応用光学

◇菊池恭孝 研究生 専攻 同上

◇渡部弘之 研究嘱託 専攻 電子計算機

◇松下 昭 東光KK 工博 専攻 電子材料

◇西川精一 助教授 工博 専攻 金属材料学

◇長田和雄 助手 専攻 金属材料学

◇小林繁美 技官 同上

◇石井聖光 助教授 工博 専攻 建築環境学

◇朝生周二 技官 専攻 同上

◇伊藤篤男 技術員 専攻 同上

出版委員

出版委員長 菊池 真一	委 員	佐藤 寿芳	委 員	早野 茂夫	専門委員	星野 昌一
委 員 成瀬 文雄		藤井 陽一		*石井 聖光		川井 忠彦
富永 五郎		安田 靖彦		越 正毅		
水町 長生		*西川 精一			編集室	水野 晴明
高橋 幸伯		後藤 信行		*印当番委員		

第17巻 第7号

生 産 研 究

(本誌は生産技術研究所の研究誌として、毎月1回発行する)

1965年7月1日 発行

印刷所 三美印刷株式会社
東京都荒川区日暮里町 8-93

頒価 140円

編集者 菊 池 真 一
発行者 岡 本 舜 三

発行所 東京大学生産技術研究所
東京都港区麻布新電土町10
電話 (402) 6231 (代表)
千葉実験場 千葉市弥生町
電話 千葉 (51) 8311 (代表)